

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
 〒803-0817 北九州市小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
 TEL093-592-5000 Fax093-571-4346
 E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

北九州革新懇 インタビュー



プロフィール 三原 泰尚 (みはらやすひさ) さん

1934年宮崎県延岡市生まれ、81歳。延岡高校、東京経済大学卒。国民金融公庫に1994年まで勤務、この間1982年～84年、1990年～94年の退職までの二度同北九州支店。退職後そのまま北九州市に居住、2012年九州玄海訴訟原告に。現在戸畑区天神に在住。

12月13日、戸畑革新懇世話人の青木が戸畑区内でインタビューしました。

◆三原さんとは「原発なくそう！九州玄海訴訟」戸畑地区原告団結成いらいのお付き合いですが、まず原告になられた理由からお聞きます。

三原 福島原発事故までは、チェルノブイリも遠い国の事故、原発はクリーンでCO2を出さないエネルギーという認識でした。それが、福島事故を見て、原発は人間にコントロールできないことを知りました。原発関連の新聞記事や雑誌、小出裕明さん(元京都大学原子炉実験所助教)の本も読んでみました。そのなかで、電力会社の隠ぺい体質や学者の間でも推進派と反対派があることも知りました。そんな中、福島事故から1年目、「さよなら原発！3.11北九州集会」の開催を知り、妻とともに参加しました。玄海訴訟の原告になったのは、この集会で「玄海訴訟テント」が目に入り、そこで原告への参加申込書をもらっ

たからです。

実は驚いたことに、長女夫婦(小倉南区在住)にこの集会でバッタリ出会ったのです、まったく偶然。娘たちも原発問題に関心を持っていたことを知りました。集会後の九電までのデモ行進は、金融公庫時代に組合役員をされていて「メーデー」に参加して以来、久々のことでした。

原告の申し込みは、長女夫妻、糸島に住む弟にも声かけ、私はすぐに原告になりましたが、妻、娘夫婦、弟は1～2年後に原告になりました。原告になってから佐賀地裁での裁判に3回参加しました。鹿児島島の川内訴訟の原告にもなりました。かつて国民金融公庫川内支店に勤務し、川内

原発の現地を見に行ったこともありましたが、原告になってから、親しい人には年賀状に「恵

みの多い自然を子孫に残したい」と書いて送るようになりました。

◆公庫を退職されて、実家の宮崎でなく北九州を“終の棲家”に選ばれたのはどうしてですか。

三原 一つは退職後、北九州市の観光案内ボランティアに応募し、北九州の魅力に触れたからです。平成8年4月から27年3月までボランティアをつづけ、門司港レトロ、小倉城や市街地、戸畑の菖蒲まつり・戸畑祇園の案内などを行い北九州の良さ、旧5市それぞれの歴史があるのだと思いました。戸畑の九州工大を開設した安川・松本親子、若松の高塔山登山口にあるアジサイの咲く「佐藤公園」や「東京美術館」を寄贈した佐藤慶太郎とそれぞれ炭鉱で得た資産を社会に還元しています。いまの財界人と違うと思います。

もう一つは、健康のためにと始めた水泳をつうじて北九州に仲間ができたことです。プールに通うようになったのは、京都・西陣支店時代に、

理事者からゴルフへの誘いを受けたんですが、“組合対策”の匂いがしたので断り、月に2〜3回プールに行くようになりました。それからずっと水泳を続け、宮崎支店時代には、錦江湾横断遠泳大会にも3回出場しました、51か52歳の頃です。距離は4キロメートル、4人1組で一人は船で伴走、3人で4キロをつなぐ競泳です。北九州ではコナミ・スポーツクラブに10年通い、仲間も出来ました。今年は5月と9月の2回、この仲間4人でチームを組んで福岡市で開かれた日本マスターズ大会に出場。種目は80歳による4人×25メートルのフリーとメドレーリレーの2種目、結果はそれぞれ5月が銀、9月は金メダルでした。こうした仲間と“角打ち”や“炉端焼き”に通うのも楽しみです。

◆戦争法(安保法制)の強行成立後に、「戦争法廃止！戸畑共同委員会」が主催した“まじま省三衆院議員の講演と交流の集い”に参加されましたが、どんな感想をもたれましたか。

三原 まじま議員の話聞いて戦争法のことを本当によく理解できました。直に国会議員の話聞いて理解が深まり、始めて知ることもあり、メモも取りました。「2000万署名」の話もあり、共産党がそのうち1000万は引き受けるということ。私も、この後、署名用紙と「戦争法廃止の国民連合政府」提案の「赤旗」特別号外をいただいて娘や弟たちに送って、署名を集めてもらうように頼んでいます。

私はいま、孫たちに戦争の体験を書き残しておきたいと思っています。終戦の時、私は10歳、小学5年生でした。その頃、延岡市の旭化成工場に近い所に住んでいました。工場は軍需品を造っていたと思います。空襲警報が鳴り、防空壕に弟と妹の3人でかけ出してからすぐにもものすごい爆発音があったので道に伏せました。そのときの

爆風のすごさは今も忘れません、妹はぶるぶる震えていました。家に帰ると窓ガラスは爆風でめちやくちやに吹き飛ばされていました。

もう一つは、延岡が焼夷弾の空襲にあい、兄妹4人高千穂町に疎開したときの体験です。友だち二人で山道を歩いていた時に、米軍機が低空飛行で私たちをめがけて機銃掃射してきたのです。子どもだったので脅しのつもりだったのかどうかわかりません。5メートルぐらいの側を銃弾が走りました。その恐怖は忘れません。

いま一つ、海軍に籍を置いていた父親のこと書き残そうと思って、軍歴を厚労省に調べてもらうよう照会しているところです。

*インタビューが終わって、三原さんには「全国革新懇ニュース」の読者になっていただきました。

《泣いて・歩いて・怒って・鳥肌立った3泊4日の沖縄レポート》

沖縄を真に平和な島に

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会 事務局長 八記久美子

■肌身で感じたいと

新聞やテレビで見る沖縄の現状を、肌身で感じたいと、12月1日から沖縄に行ってきました。

那覇の裁判所で開かれた「辺野古古代執行訴訟」の第1回口頭弁論をはじめ、ゲート前の座り込み、徒歩とバスでの普天間基地の一周など、いろいろな体験をしてきました。

4日間の中で一番強烈だったのは、やはり、キャンプ・シュワブのゲート前の座り込みです。

■毎日こんな闘いを…感動と尊敬で涙

5時40分にホテルを出て、歩いて1分の「共同センター」に行き、真っ暗な中を、20分ほど離れたキャンプ・シュワブのゲート前まで、車で連れて行ってもらいました。

ゲート前には、もう住民の方が座り込んでいます。私も早速座り込みましたが、薄暗くて周りの人の顔がよく見ません。

7時前、機動隊のバスがすぐそばに着き、若い機動隊員が下りてきました。そして、私たちの前に対峙するように並びました。座り込みの隊列に緊張感が走ります。私は、沖縄のみなさんが、毎日こんな闘いをしているのかと思うと、感動と尊敬、そして国に対する怒りで、心が震えしばらく涙が止まりませんでした。

■自分なりの抵抗を



熱気に包まれた激励集会。こんなに人が集まったのは、日本の裁判史上初めてだそうです。



合図とともに、私たちに襲いかかる機動隊

そうこうしているうちに、「かかれ!」の号令。機動隊が私たちに襲いかかりました。

私は前から2列目だったので、あっという間に隣りの人とのスクラムを強い力でとかれ、足と両腕をつかまれ運ばれました。体中の力を抜いて、引力に身を任せたからだけではありませんが、機動隊の若者は、「この人重い」「この人重い」と言いながら、それでも、後頭部に手を添えてけがをしないように配慮しているのが分かります。左側を抱えている機動隊員に、「警視庁は乱暴だと聞いたけど、沖縄県警の人?優しいね」と言うと、一瞬表情が和んだ気がしました。そして、ゲートから20mくらい離れた柵の前で下ろされ「歩けますか?」と聞かれました。「歩けるけど歩かない」と言うと、また、両脇を持ち上げられ、引きずられて柵の中に入れられました。

後日新聞報道を見ると、この日座り込みをした人数は100人。私たちが柵に入れられている間に、工事関係車両が20数台基地内に入ったとありました。

■鳥肌たった翁長コール

12月2日に行われた、翁長知事が国に訴えられた裁判では、32の傍聴席に611人の応募がありました。私は案の定抽選に外れました。

午後1時。裁判に向かう知事の激励集会は、裁判所の前の公園で行われました。1000人以



普天間基地は、若い兵士の訓練場。「未亡人製造器」と言われるオスプレイの練習が、沖縄の人々の、日常生活の上で行われる異常と怒りを、強く感じました。

上はいたと思います。ともかく人・人・人です。

いろんな人の挨拶が進むにつれ、会場の熱気が高まって行きます。そして、翁長知事の挨拶。割れんばかりの拍手と「ピーピー」の口笛と翁長コール。私は鳥肌が立ちました。そして、こんなにも明確な民意を無視する安倍政権を、本当に許せんと思いました。

■信じられない名前

私は沖縄でいろんな事を教えてもらいました。その中に、沖縄の海兵隊基地の名前には、沖縄戦で日本兵を何人も殺したことで榮譽を受けた兵士の名前が付けられていると聞きま

した。キャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブ、キャンプ・コートニー、キャンプ・マクトリアス。信じられない話です。

■歴史的に見ると

琉球王国は 500 年の歴史の中で、ベトナム・中国・タイなど、アジアの各国と交流を深めてきました。アジアの架け橋としての琉球です。しかし、1609 年薩摩から侵略され、1872 年には、明治政府の廃藩置県で琉球王国は滅亡。1945 年には米軍の施政権下に差し出され、1972 年の日本復帰後、「米軍基地の即時・無条件・全面返還」を求めたにも関わらず、日本全国の 74%にもおよぶ米軍基地を押しつけられました。そして今、8 割以上の県民が反対する中、日本政府から、米国の軍事基地を固定化されようとしています。

400 年以上にわたる、権力に翻弄され続けた沖縄の歴史が、沖縄のみなさんの不屈の心を生み出したのかも知れません。「沖縄に平和・自治・人権・民主主義を取り戻すんだ」という底を這うようなうねりを感じた 4 日間でした。

「アベ政治を許さない！」12月3日、浅生公園で市民にアピール

「戦争法廃止＝戸畑共同委員会」の呼びかけで12月3日、戸畑区の浅生公園で22名の人達が「アベ政治を許さない！」のポスターを掲げ、通行人や車にアピールしました。



城野遺跡をつぶさないで！現地保存を進める会が学習会と見学会を計画

城野遺跡は、小倉南区に所在する弥生時代中・後期の遺跡で、旧城野医療刑務所敷地として管理されてきたため、市街地化が進む中で、良好な状態で残っています。城野遺跡には、竪穴式住居と、弥生時代後期の大型の方形周溝墓1基が発見されており、方形周溝墓では、箱式石棺2基が検出され、石棺は、内部を赤色顔料で鮮やかに塗彩、水晶や碧玉の大量の剥

片や未製品、破損品、そして鉄製工具や砥石などが集中的に出土する遺構が発見されています。さらに近隣には、重留遺跡が存在し、城野遺跡を含めた紫川流域一帯が、弥生時代から古墳時代への転換の様相を地域社会から解明していく上で、重要な遺跡であると日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会も説明している遺跡です。

詳しくは折り込みチラシを